

学位論文審査の要旨

学位申請者	堀井(小柳津) 香奈子 ジェンダー学際研究専攻 2017年度生		論文題目	キャラクターは母親の子どもへの接し方に影響を与えるか -M-GTAによるキャラクター活用に関する分析-
審査委員	主 査:	石井クンツ昌子 教授	インターネット 公表	学位論文の全文公表の可否 : 否
	副 査:	斎藤 悦子 准教授		「否」の場合の理由
	副 査:	棚橋 訓 教授		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	菅原 ますみ 教授		<input type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	西村 純子 准教授		<input checked="" type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博士 (社会科学) Ph. D. in Sociology			<input type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
				<input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている
				※本学学位規則に基づく学位論文全文の インターネット公表について

学位論文審査・内容の要旨

本研究では、①幼少期からキャラクター(小説、漫画、アニメ、映画などのコンテンツに登場する図像として書かれた登場人物)に触れて育った親世代が、育児にどのようにキャラクターを用いているのか、その現状を調査すること、そして②母親がどのようにして育児にキャラクターを活用するようになっていくか、また子どもとの接し方にどのような変化が生じるのかを明らかにするのが主な目的であった。研究方法は半構造化インタビュー調査であり、対象者は第一子が未就学児の母親である。調査は2018年10月から2019年2月にかけて実施され、計7名の協力者から得たデータはM-GTA (Modified Grounded Theory Approach) の手法を用いて分析された。主な結果として、キャラクターは育児資源であり、母親はキャラクターの与え方について複合的な意思決定を行っていること、キャラクターが子どもの成長や喜びを可視化する役割を担っていること、キャラクター活用により母親の子どもとの接し方がより民主的になったことなどが明らかになった。

本審査委員会は2019年12月4日と2020年1月21日の2回開催された。第1回審査委員会においては、キャラクターを介した幼児期の母子関係に注目した意欲的な研究であると評価されたが、論文としての完成度、M-GTA分析の妥当性、Baumrindのマトリックスとストーリーラインに即して母親の軌跡を結びつける難しさ、知見の学術的意義などに関する問題が指摘された。審査委員会の全てのコメントに忠実に対応して修正した結果、第2回審査委員会においてはかなりの改善が見られたと判断された。審査委員会は、キャラクターというモノを介した母子関係に注目したことはかなり独創的であり、育児戦略、アタッチメント理論などを援用したことも学術的に意義があると判断した。また、得られた知見により、母親の育児不安や負荷を軽減し、母子関係の構築に貢献できるという示唆を提示できたことも高く評価された。公開審査会は2020年2月5日に開催され、発表は非常によく整理され、多くの質問に対して申請者は適切に応答した。